

## 令和2年度真庭市立 河内こども園 学校評価(自己・学校関係者)評価書

園長	自己評価総合所見		評 価 基 準
学校関係者評価委員	<p>今年度は新たに目指す幼児像を再考し、その中で特に「美しくあたたかい心の子ども」に着目し、優しい心もちと温かい人間関係づくりを重点に取組を進めた。加えて、誰もが笑顔で穏やかに生活できるように、気持ちの良い挨拶や返事、きれいな言葉のやりとり、思いや考えを表現する力や態度が身につくよう、保護者と共に意識しながら取組むことができた。</p> <p>さらに、園内研修で「絵本とわらべ歌」を学ぶ機会に恵まれ、日々の絵本の読み聞かせが、想像力や語彙力を高めたり日本語の美しさやリズムの面白さに触れたりする重要な時間として位置づけられた。</p> <p>コロナ禍で窮屈なこともあったが、その中でも笑顔で会話する姿が増えていることを実感できるのは、「言葉による伝え合い」が上手になってきていることや、絵本の場面の再現遊びをしたり絵本のフレーズでやりとりをしたりなど、絵本の世界が生活に溶け込み心を豊かにしてくれているからではないかと感じている。今年度はメディアコントロールについても理解が進み、保護者と協力して子どもたちの健やかな育ちを支える取組が一步踏み出した。「共に育てる＝共育」の体制はコロナ禍での大きな成果である。</p>		4 80%以上の達成度
			3 60%以上80%未満の達成度
			2 40%以上60%未満の達成度
			1 40%未満の達成度

評価領域	評価項目	評価指標	評価(自己)	結果の分析及び改善方策等	評価(関係者)	自己評価に対する意見等	
美しくあたたかい心の子ども	言葉で表現する力と感性を高める	①自然に触れることを喜びその大きさ・美しさ・不思議さに気づくことができる。(園児・保育者) ②感じたこと・イメージしたことなど自分なりの言葉や表情で表すことができる。(園児) ③絵本やお話を楽しむ(園児)・・・1日1話の取組を継続する(職員)	4	◎温かい心の育ちに繋がるよう、親しみをもって挨拶をすることや生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付くことなど、職員が意識を高めている(成果) ◎絵本好きになり、ストーリーを再現した遊びや言葉のやりとりを楽しんでいる(成果) ◎対話や会話ができたことでめめ事が少なくなっている(成果) ◎絵本やわらべ歌による日本語の言葉のリズムや美しさに触れ心地良さを感じている(成果) ◎自然に触れると美しいもの・不思議なこと等心を動かす出来事に多く出会うことができ、子どもの発見に保育者が感動することもある(成果)	(今後の取組) 優しく温かい言葉を意識して生活するとともに、良い絵本を選択できるよう研鑽する 保育者が感性を磨きながら、表現活動・製作遊びの環境づくりを工夫する	4	<p>〈カルタは自分で考えたのか〉 Q:カルタの言葉は誰が考えたのか?これだけの言葉で表現できるとは素晴らしい。 A:子どもたちが生活の中で体験したことや絵本の世界を思い出したことを字札にしている。自分のイメージを言葉にしているので絵も楽しく描けた。よってカルタ取りもより楽しくなった。</p> <p>〈カレンダーについて〉 子どもの絵は素晴らしい。カレンダーをいただいたが、カラーコピーをして一人暮らしの方に配りたい。 〈絵本を家庭生活に取り入れる〉 本を読むこと、絵本を持ち帰り、子どもに読み聞かせることが増えた。</p>
	一人一人のよさや持ち味が活かされるクラスづくり・園づくり	①友達と一緒に活動することを喜んでいる。(園児) ②友達の持ち味やよいところに気付き認め合っている(園児・保育者) ③親しみを持った挨拶や返事をしている(園児・保育者) ④クラス内の困ったことやつらい出来事を自分のこととして一緒に考えようとする(園児・保育者)	4	◎アンケート結果により友達と一緒に遊ぶことを楽しみにしていることがわかる。また、4歳児・5歳児になると、友達のよさや持ち味にも気づき、困ったことが起きると解決方法を一緒に考えたり、相談したりするような姿が増えている。(成果) ◎小規模園ならではのクラスの枠を超えた異年齢の交流ができ、穏やかな雰囲気になることから思いやりや憧れの気持ちが芽生えが見て取れる(成果)	(今後の課題) 温かい人間関係の構築には、職員が寄り添い幼児理解を深めることが重要となる。		
考えてやり抜こうとする子ども	思考力・探求心を高める環境づくり	①試したり工夫したりする時間と空間の保障をしている(保育者) ②身近な自然事象に関心を持ち生活に取り入れて遊んでいる(園児) ③季節により自然や人間の生活に変化があることに気付く(園児)	4	①②自ら選んで遊ぶ時間が充実するように、時間調整や活動の場づくりなど、職員同士で工夫している。試す・工夫するなど科学的な探求心を膨らませて活動に夢中で取り組むようになってきている。(成果) ③季節ごとの行事については子どもたちに何を伝え経験させるか見直しを行い意義ある行事となっている。(成果)	(今後の課題) 保育者の語り合いの時間の確保	4	<p>〈職員の対応〉 降園時、どの職員もその日の様子を伝えてくれる。継続していただきたい。 〈日常の取組について〉 職員のみんなが頑張っている。雰囲気もよい。感謝している。 子どもたちも育っていることがわかる。</p>
	「やってみたい」と心を動かす主体的に遊ぶことができる環境づくり	①好きなことを見つけ楽しむことができる。(園児) ②幼児の興味関心を揺さぶる環境づくりを工夫している。(保育者) ③遊びや生活に意欲を持って取り組んでいる。(園児) ④自ら考えようとする気持ちを高める援助をしている(保育者)	4	②④自ら活動を選択して遊ぶ時間を増やし、その中での子どもの興味関心を捉えて素材や道具を用意したり、個々の願いに応じた援助をしたり、一人一人の内面を理解した環境づくりを意識するようになってきている。(成果) ①③自分のしたいことが明確になり、積極的に活動するようになってきた。また、イメージを共有しながら子ども同士で遊びを進めることができるようになってきている。(成果) ◎年長児は自ら楽しくなるように展開を考えたり、困難なことにも挑戦したり意欲的な取組ができるようになった(成果)	(今後の取組) 遊びは身近な人・物・こととの関わり方を楽しむ学ぶ大切な活動として環境構成と援助の工夫を継続する		
生き生きとした明るい子ども	のびのび生き生きと活動できる環境づくり	①嬉しいことだけでなく、つらいこと・困りごとなど職員に知らせることができる(園児) ②生活のルールは子どもの目線(視覚的・心理的)で決めたり子どもと共に考え直したりしている。(保育者) ③子ども達の動線を把握しながら整理整頓に心がけ安全に生活ができるようにしている。(園児・保育者)	3	①「先生が好き」という安心と信頼の人間関係を築くことができてきている(成果) ②③活動や生活のルールについて、子どもの思いや考えを聞きながら整えていくようにしている。子どもの心身の動きや発達段階・興味関心などに応じてルールを決めたり、話し合いで確認したりして、よりよい生活の場となるよう、保育者と園児が共に考えを出し合っている。(成果)	(今後の課題) 基本的な生活習慣・挨拶返事・後始末が定着するように一人一人に丁寧な指導をする。	4	<p>〈後始末の様子〉 毎年コマ回しを教えているが、今年の子どもたちはコマ回しが終わった後の片付けが丁寧にできるので感心している。回らなかった時や箱に入れる時に投げ入れる児がいるが、今年は違った。こうして後始末ができることが何より素晴らしいことだ。生活の中のすべてにおいて丁寧に取り組んでいることがわかる。 叱る必要があれば叱ってやっていい子を育ててほしい。 〈園行事について〉 ミニミニ運動会の様子を見て、アットホームであること、年長児が活躍できる場があることなど、独自での開催の意図がある。学区運動会は4・5歳児でよいのではないか。</p>
	衛生的食生活を整え、安全で美味しい給食提供	①「お腹が減る」活動を積極的に取り入れている。(保育者) ②戸外遊びが大好きである。(園児) ③食べる時間を喜び、美味しく楽しく給食時間になるような工夫をしている。(園児・保育者) ④清掃・衛生管理・整理整頓など生活が安全で潤いのあるものになっている。(調理職員・保育職員)	4	①②自ら選んだ遊び・クラス活動ともに戸外で全身を使う活動を積極的に取り入れている。暑さ・寒さも気にせず、戸外活動に喜んで参加したり、自分たちで遊びをすすめたりするようになってきている。(成果) ③全学年が体を動かす活動で遊んでおり、食欲も旺盛である。残食はほとんどない。(成果) ④毎日の衛生管理に注意を払いながら給食業務にあたっている。また、調理員と保育職員の連携も密であり、園児・職員にとって安心・安全な給食提供になっている。(成果)	(今後の課題) 快食・快眠・快便を意識し、個々への援助を工夫する。		
保護者・小学校・地域との心の繋がり	保護者と繋がる	①園行事の意味や意義を理解している(保護者・保育者) ②子どもの体調・情緒など常に情報交換して把握するようにしている。(保護者・保育者) ③基本的な生活習慣が身につくように保護者とともに丁寧に指導している(保護者・保育者)	4	①コロナ禍で中止や縮小もあったが、保護者の理解と協力により自由参観日・ミニ運動会・生活発表会など実施できた。行事を通して成長を喜び合うことができた(成果) ②挨拶・衣服の着脱・排泄・持ち物の始末など、個々の状況に応じた指導を心がけている。 ③気持ちの良い挨拶や言葉で伝えることの大切さを保護者の方にも理解していただき、共に配慮をすることができた。さらに年中児・年長児はメディアコントロールの取組にチャレンジした(成果)	(今後の取組) クラス懇談や個別の相談日を設ける。	4	<p>〈アンケート結果の比較〉 保護者アンケートの結果をこれまでのデータと比較することで、成果がわかりやすいのではないかと。 〈校長園長の情報交換〉 お互いに時間が取れない状況。来年度は2ヶ月に1回くらいのペースで計画してはどうか。 〈小学校との交流について〉 小学生はお世話ができることを喜んでいる。今年度は5年生との交流ができなかったが、来年度は楽しく交流できるようにしたい。 〈小学校が学ぶこと〉 現在の1・2年生は積極的に発言や提案をすることができる。(振り返り)感心している。学年が上がると型が決まってしまう。こども園であれだけ自主的に重んじて活動に取り組んでいるのに小学校が反省するところである。10の姿を知らなくてはならない。主体的な姿を小学校側が引き継いでいきたい。 〈メディアの取組は家庭のもの〉 メディアコントロールについては家庭での取組です(親同士の繋がり) 親同士が顔を合わせることが少ない。親同士が繋がれる場が必要である。 (現2年生の保護者は親父の会が発足され、今も継続している。 (とんどの参加について) 今年度初めての参加。地域の方との交流になる。良い体験である。 ◎一人っ子の家庭も多いので、小学生や地域の方と関わることがよい体験になる。 ◎コロナ禍で中止や縮小もあった。それらを今後どのように取組むか見通</p>
	小学校と繋がる	①公開保育・公開授業に参加する。 ②教職員が互いの教育内容を理解しようとしている。 ③園・校長の情報交換をしている。	4	①②回数は限られたが事前の話し合いにより、園児も全力で活動に取り組む「楽しい交流会」になった。(成果) ③今年度も話し合う時間の確保が困難であった。評議員会に出席することで互い情報交換ができてきている。(成果)	(今後の取組) 互い育ちを保障できるよう事前・事後の話し合いを大切に交流会を行うようにする。		
	地域と繋がる	①地域の良さを素晴らしさを理解し保育に取り入れている。(保育者) ②河内の地域の人や事柄に興味を持ち関わろうとしている。(園児)	4	①全クラスが園外に出かける活動を計画的に且つ積極的に取り入れることができた。自然物・自然事象・地域の方との出会いや触れ合いが、心を動かす体験の機会となっている。(成果) ②コロナ禍で地域の行事が中止となったが、念願の地区のとんどに参加させてもらった。また、収穫祭・餅つき・畑作り・お楽しみ会など園行事は例年通り実施できた。。優しく穏やかな笑顔や声かけに、園児は満足感を味わっている。(成果)	(今後の取組) 園外保育を積極的に取り入れ河内のいいところが発見できるようにする。経験しにくくなっているとんどの参加を継続したい。		

学校関係者評価総合所見	<p>1重点課題について:環境を通して行う教育(保育)である幼児教育は、教員で表しにくく、評価も難しいという課題があるが、生活する子どもたちの姿の中に、友達や物を大切にしていることや言葉で思いや考えを伝えようとしていること、気持ちをコントロールして踏ん張ること、挑戦を楽しんでいることなど、子ども達の心の育ちが現れていると評価していただいた。また、そのようなことこそが人としてとても大切なことだと認めていただいた。</p> <p>2地域との交流について:コロナ禍で地域の方との恒例行事が中止となったが、手作りのマスクやカードを贈っていたり、念願であった地域のとんどに参加したり、これまでと違う形での交流となった。また、年長児が創るカレンダーを一人暮らしの方にも贈りたいとの希望をいただいた。子どもたちができる地域貢献として取り組みたい。</p> <p>3小学校との連携について:コロナ禍で交流会や行事、校長・園長連絡会ができなかったが、来年度は定期的に行いたいとの意見をいただいた。近隣であるが、互いに時間に限りがある。園で育ったことが引き継がれるような連携していきたい。</p>
-------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

学校関係者評価を受けての対応	<p>年度当初はコロナ禍で行事の縮小や感染予防のための制限など、例年通りとはいかないことがあったが、保護者の理解と協力により、職員と共に子どもたちの生活と育ちを守ろうとする体制となった。その中で子ども達はのびのびと生活することができ、加えて保護者も職員も「まあいい笑顔」で過ごすことができた。今後も「共に育てる＝共育」の体制を継続したい。</p> <p>また、乳幼児期は語彙の獲得や必要な概念を学ぶため、「美しくあたたかい心の子ども」を目指し、モデルとなる保育者が豊かな言葉で話すことや、絵本やわらべ歌などできれいな響きやリズムに触れる時間を大切にしたい1年であった。</p> <p>子どもたちの姿からは、言葉で表現することが増えるともめ事が少なくなり、言葉・製作などの表現遊びに楽しさが増えていることがうかがえる。語彙力やコミュニケーション力の高まりが就学後の学力や生きる力に大きく影響することを踏まえ今後も豊かな話し言葉を育む環境を創っていきたい。</p>
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------